

# KIFA Party 2001 和やかに開催



2001年11月18日(日)、第14回を迎えたKIFA Partyが市総合福祉保健センターにおいて開催された。21世紀初めてのパーティは、例年とは違ってKIFAの会員はもとより一般市民の方たちの参加が目立ち、更に多くの外国人も加わって、昨年の266人を大幅に上回る400人もの方々が集う盛大なものとなった。会場一杯に張り巡らされた色とりどりの万国旗もまた、国際色豊かな雰囲気に彩りをそえる。総会司会は吉川重清・吉川秀子さんのお二人。田澤KIFA会長の挨拶は英語でスタートし日本語で締めくくった。来賓の方からのご祝辞をいただくと、早速「乾杯」し、パーティの催しは進む。

KIFA独特のアトラクションは、あづまや会や若風会による日本舞踊の「津軽じょんがら」や「勝海舟」から賑やかに始まった。そして鎌ヶ谷二胡愛好会の皆さんによる中国や日本歌曲の演奏がさわやかに奏でられる。民族衣装をまとったイランの方たちによるダンスが始まると、会場の皆さんがドッと舞台上に上がって一緒に踊りだした。陽気な外国人と一緒にって日本人も踊る！ 子どもたちも踊る！ もう收拾がつかないほどであった。

中国武技は、楊彩霞さんと皆川道子さんによって「木蘭拳」や「太極拳」が優雅に演じられる。何とかなやかな動きが出来るものだ。太極拳などは、お年をめすほどに身体を柔らかくさせるのかもしれない。一方、少数派のガーナの男性お二人は巨体を丸めて、少し恥ずかしそうに小さな太鼓を叩いてニコヤカにはしゃぐ。そんな中、ハプニングが起きた。昨年のパーティで知り合ったスリランカの青年と日本の女性が結婚衣装で舞台に登場し、本年結婚した旨の宣言を行った。なかなか似合いのカップルだ。こんなところにも、それぞれのレベルで、着々と国際交流が進んでいることを感じさせられる光景の一角が見受けられた。

今回のパーティで際立ったことは、初めて参加された人々がたくさんおられたことである。これからの時代を担う若い人々や子どもたちの姿も多く目に付いた一日もあった。そして共に集まった皆さんがそれぞれに世界各国の文化や言語に触れ、弾んだ楽しい会話。それはまた、次のパーティへの期待感を高めるものとなったに違いない。

波多野敬雄氏講演会

# 日本の常識、世界の非常識

元国連大使の波多野敬雄氏による講演会が12月9日市総合福祉保健センターにて開かれた。

外交官としての経験から、長い外国生活を通して日本人固有の価値観のため、国際化が進まず、世界の常識から掛け離れていると指摘され、わたしたちの考えかたの不思議さを話された。

日本はお金は出すがその先は関知しない。  
危ない事はしない。  
外国人を受け入れない。

これらのことは日本人にはあたり前の考えだと思いが外国人には不思議にうつる。

日本は各地の紛争後の掃除に努力しているという考え方が政策の根本にあるように思う。このような日本的な



にこやかに話される  
波多野氏

考え方をなんとか世界の常識として受け入れられるようにと努力されていた、ということ話をの中から察することができる。

また、会場から16通の質問がよせられたが、その中からいくつかに答えていただいた。

中国の勢い、農作物の保護政策のありかた、日本は自衛隊をどのように理解して戦地におけるのかなど、わたしたちの生活に密着した質問の数々に答えてくださった。男性の出席も多く質問の内容にも深いものがめだった。

今、世界が大きくゆれ動いている中でも新聞の外交に関する紙面の少ないこと、もっと皆が外国の出来事に関心を持ってほしい、など外交の専門家による講演は実のあるものでした。

国際政治の話・フルートコンサート

## — 日本としてめざすものは…… —



熱唱する神崎さん

「雨、やっぱりやめようか」「せっかくのいい企画なのだから、行こう」  
家に引きこもって読書三昧の夫に促されて、小雨降る中、三橋記念館へ。会場は人でいっぱい、立ち見まで出るありさま。  
人寄せパンダの妻の神崎のおかげと講師宮本先生はご謙遜。もちろん神崎愛さんのフルート演奏及び歌は、心地よく感動

的なものでした。しかし、国益を考えない元田中外務大臣、襖をしない外務省という“号外”で始まった60分間の世界の旅も、元外務省の役人らしさのでた楽しいものでした。

特に中国との関係では、日本にも反省すべき点があること。こういった歴史問題があるから、日本は腰が引けてるし、江沢民は日本の反省をちらつかせている。従って日中は対等の関係がもてない。

一方ロシアは自分の安全を200%守りたい国。北方領土問題も歴史的には4島日本のもの。しかし現実問題としてはロシアの民族性を考えると、譲歩して、3島返還としたい。で、友好を深め、ロシアの資源開発に日本の

技術を注いだ方がよい。等々……。

アメリカ、ヨーロッパ、中国、ロシアと外交官としての実体験をふまえながらの多角的な世界観。日本が国際社会からどう見られているか。世界の中でどう生きていったら良いのか。日本の未来はどうあるべきか。世界のの中の日本を強く強く意識したひとときでした。

日本としてめざすものは「安全（楯）、豊かさ（科学技術）、品格（徳、文化）です」と最後の言葉がいまも心に残っています。

(林みどりさんより投稿)



講演される宮本氏



リハーサルも真剣に

日時 2002年2月3日(日)  
PM1:00~  
会場 三橋記念館地下ホール

プログラム  
—宮本信生・神崎愛夫婦共演—  
宮本信生氏  
講演 “国際社会における日本文化”  
☆旅・民俗・風物・食・文化・歴史☆  
講師プロフィール  
慶應義塾大学法学部卒業・法学博士  
元駐チエコ大使  
外交評論家  
神崎愛コンサート  
♥フルート  
ハンガリー・田園幻想曲  
ペニスの謝肉祭  
春の海  
♥歌  
魅惑のワルツ  
二人でお茶を  
シェルブールの雨傘  
プロフィール  
東京芸術大学卒業  
フルーティスト・女優・歌手

## 国別交流会「タイDAY」を開催

12月2日の日曜日、まなびいプラザにおいて「ほほえみの国タイに生活して、その歴史と文化」と題する講演とタイ出身で鎌ヶ谷在住の主婦の方々を囲む催しが行われた。KIFAとしてはブラジル、フィリピン、中国DAYに続く、国別交流会の4回目。講演は、タイ在住経験が豊富なKIFA会員の遠藤尚子さんが担当。遠藤さんはタイ滞在中に、バンコクの国立博物館で日本語ボランティアガイドを務めており、私たちに数多くの新鮮な知識と刺激を与えるものだった。

タイは、19世紀に入って欧米列強の東南アジア進出の際にも唯一植民地化をまぬがれ独立を維持した。20世紀、専制君主制から立憲君主制に変わる中で何度もクーデターが起きたが、軍部や国民の王室に対する敬意は失われなかった。このことは青、白、赤の3色のタイ国旗に如実に示されている。青は中心となる国王を、白は仏教の潔白さを、そして赤は国民の熱情を表している。一方、タイ人の90パーセント以上は上座仏教を信仰し、男性は一生に一度は出家する義務がある。タイの首都はバンコク。だが実はこれは古い地名。正式名はクルンテープ・マハナコーン。タイ人は略してクルンテープ（天人の都）と呼んでいる。

フリートーキングではKIFA通訳ボランティアの桑野弘子さんも加わって、タイのお茶やお菓子を味わいつつ、



タイの歴史を語る遠藤尚子さん

その魅力を存分に楽しんだ。お茶はバイトウーイとタッククライ。葉を煮立てるとレモン色になり芳しく香る。それに砂糖を入れて飲む。お菓子は、もち米やココナッツ、ドライフルーツなどが原材料。世界の三大スープは、タイの「トムヤムクン」と中国の「フカヒレスープ」、フランスの「オニオングラタンスープ」とのお話もあった。

後半はチャナンヤ関野さんがタイ語で話し、ソムマーイ徳田さんが通訳をするタイ語の挨拶や簡単な会話練習。サワディーカー（男性はサワディークラブ＝おはよう、こんにちは、こんばんは、全てに共通）、コープクンカ（コープクンクラブ＝さようなら）などの挨拶を唱和し、タイ語の片鱗を学んだ。

## 会話もはずむ「家庭料理講習会」

「食は文化なり」。料理を理解する事は国際交流の原点でもあります。

KIFAでは毎年各国の家庭料理を取り上げ講習会を開催しております。

今年は1月27日南部公民館で行なわれました。選択された料理はスリランカ、韓国、カナダ及びインドネシアの4カ国で指導する講師はそれぞれの国の出身者。各講師や担当者は何度も会合を開き、料理の種類や組み合わせを決めた。味付けも出来るだけ本場のものに近づける為に、材料や調味料もそれぞれの専門店まで出向いて調達され、レシピが準備された。インドネシア料理は辛す



調理を楽しむ参加者たち

ぎるかも知れないとの懸念から、日本人向けに調理したものも別途準備される気の配り様。

料理の出来上がり時間に少しばらつきが出たが、最も楽しみにしている別室での試食会になった。

KIFA会員提供の飲み物や、出来たばかりの料理に参加者持参の日本食も加わり、豪華なテーブルになった。本日料理を作った国々の民謡や歌、ダンスをしたり楽しい時間は非常に短く感じられ、予定の2時間はたちまち過ぎた。

今回初めて参加された方の中には「KIFAはもっと難しい事をしていると思ったが、こんな楽しい事もしているのだ！」とか「英語が話せなくても国際交流は出来る事がわかり、早速KIFAに入りたい！」などの感想もきかれ、雨上がりの午後それぞれの満足感で家路についた。

この「家庭料理講習会」は、KIFAの呼び物の一つになっており、今年も多くの方々の申し込みを受けたが、調理台の関係から参加人員を制限せざるを得ず、お断りの方が出たこととお詫びします。当日参加できなかった方々で、レシピだけでも希望される方には差し上げますので事務局までお申し出下さい。

## 日本語講座の誕生

皆様ご存知の通りKIFAでは創立当初から外国語の講座を開講してきました。外国語に親しみ外国人と交流する人の輪を広げたいという願いからでした。こうした語学講座には外国人のための日本語学習のサポートも必要ではないかという考えにいたりしました。

1990年中央公民館主催の7回の外国人のための日本語講座が企画されKIFAも協力致しました。

そして試行錯誤しながらKIFAでは1992年専門の講師による10回の日本語講座をスタートさせました。翌年から年間30回になり、県の養成講座を受けた日本語ボランティアがサポートに加わるようになりました。

1994年からはKIFA自身で日本語ボランティア養成講座を開講し、ボランティアのみで講座の指導に当たりました。1995年からは年間40回の講座になりました。

現在までの日本語受講生の出身国は30数カ国に及びます。そして受講生にもボランティアの役割が理解されるようになり、KIFA事業への参加や協力、また学校授業協力のボランティアを行なうなど活動範囲も広がって来ています。



### ● はじめに生徒ありき

暑い時も寒い時も休まず来てくれる人や、仕事の都合で来られなかったりする人や様々ですが、それらの人達に応えられたらと思います。ボランティアをしようと言う事はみんなが楽しくなければ続きません。時間の積み重ねと共に仲間が増えていくのも楽しい事のひとつです。

### ● たのしい日本語ボランティア

外国人にとって日本語は外国語です。例えば「今日は冷たいですか、寒いですか。」と聞かれたとき「この質問がなぜ出てきたのか」ということを考えつつ、答えを導き出していくことです。ボランティア活動を通して、そんな日本語の楽しさを味わっています。

# 日本語ボランティア

## 現在活動している皆さん

毎週火曜日の夜、7時半から9時まで、中央公民館で日方方がいらっしやいましたら、KIFA事務局へ連絡していたた

### ● 日本語ボランティアをやっていて思うこと

私が日本語ボランティアを始めたのは、外国人の為になる事をやりたかったからです。勉強を始めた時は、日本語を見直す事がとても新鮮でした。今でも、毎回が見直しの連続で、情けなくなる時もありますが、多くの外国人とも仲良くなれ、充実した毎日を楽しんでいます。

### ● ボランティア5年目を迎えて

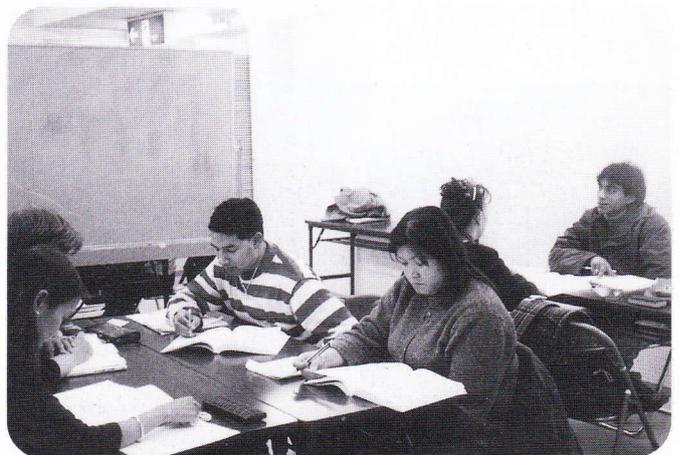
“外国人と親しく話したい”、“そうだ日本語教師になろう”と会社勤めのかたわらこわごわ講座に参加して以来、「困っていることを楽しく教えよう」をモットーにしています。最近では以前にも増して日本語に興味を持ち、パソコンで補助教材を自作するのも楽しみです。

### ● 私の気持ち

一緒に日本語を使って話ながらコミュニケーションをとることのお手伝いに私がある。そう思って楽しんでボランティアをしています。「教える」より「教えられる」ことのなんと多いことかしら。新しいことを知るよるこびをわかちあえることが一番の楽しみです。

### ● 嬉しくもあり、悲しくもあり

色々な国の人との出会いがあり、言葉が通じた時の嬉しさは格別ですが、出会いには別れがつきもの。身振り、手振り、絵の助けを借りての会話が単語から文になって、意志の疎通が出来たと思ったら、別れる時が…。でも笑顔に出会いたくて今日も講座へ足は向かう。



# ボランティアの今

の声を集めてみました。

語講座を行っています。外国の方で日本語を勉強したいのか、直接中央公民館へおいで下さい。

● 明日の準備

明日は火曜日。日本語講座の準備をする。「だんだん～なりました」の導入。さて授業をどう展開しようか。切り口は？風船を使ってみては、どうだろう。百円ショップで風船を購入。「〇〇さん、風船に息を入れて下さい」「風船がだんだん大きくなりました」。うまくいくかな？

● 思いやりの心

近所づきあいもボランティアも同じ。思いやりを忘れず自己中心的にならない。文法的に正しい会話でも言い方一つで慇懃無礼に。「外国人が求めている正しい日本語って心を伝える事ではないかしら？」なーんて自分の力の無さを棚にあげ、言い訳ばかり…それが私です。

● 日本語ボランティアで得た幸せ

日本語養成講座を千葉県国際交流協会を受けてから、9年になろうとしています。日本語だけで導入すると言う事は最初大変な事だと思いましたが、その反面導入のための文型に没頭出来る準備の楽しさがあります。生徒さんが理解してくれた時は、喜びも倍増します。

● 自分発見の場

現在は月に一度しか担当しておりませんが、自分の教え方がぴったり合って、生徒さんがしっかり受け取ってくれたのが分った時の喜びが忘れられず、やめられません。どこかで自分にも役立つ場があると言う事があるがたいと思っています。



● 外国語としての日本語

日本の子供達に教える国語と、外国人の方達に教える日本語とでは、教え方に大きな違いが必要であるという事が初めてわかりました。何気なく使っている変化形や表現法など自分でもきちんと見直す切っ掛けとなりました。外国人の方から学ぶ事も多く、世界が広がります。



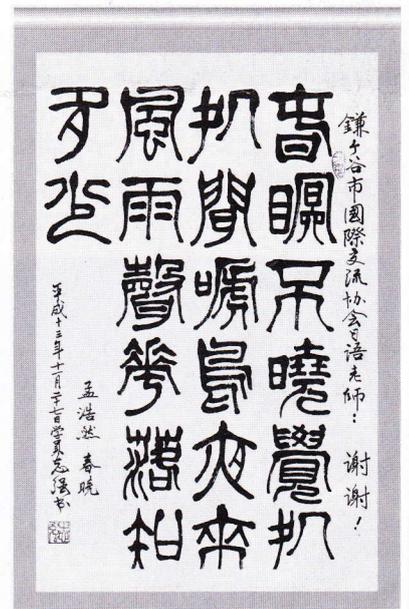
特別学習会・七夕まつり

## 「日本語講座で餃子の宴」

占 志強

日本にいる間、ここでたくさんの方だちに出会いました。時々、各国の人が自分の国のお菓子などを持ってきてみんなで食べる事もあり、楽しくすごしました。特にイランの友人が勤め先からわけてもらった一箱の魚をみんなに配ってくれて、とてもおいしく食べました。そこで私も帰国するとき、餃子をたくさんつくり持っていきました。妻とふたりで朝から準備し、160個用意しました。また、お礼の気持ちに私たちの国の詩を書きました。日本でも有名な詩だということでも喜んでもらいました。

この国ではボランティアは自分の楽しみでやっているという人もいと聞きましたが、わたしは人とひとが心から友情を結ぶことがボランティアの意味だと思います。日本語を教えてくれたり、バス旅行では、自分の車で送ってくれたり、ガイドをしてくれたりといつもわたしたちが楽しく安全であるように気を配ってくれていました。



半年間一緒に勉強した中国の占志強さんから上記のメッセージと墨書をいただきました。(要訳:通訳ボランティア)

# 久し振りの故郷から

鈴木 恵

日本から一番近い外国と言えば、まちがいなくわが国・韓国なのではないでしょうか。ほんの少しだけ紹介させていただきます。

わが国は三方を海に囲まれた半島で北と南にわかれた朝鮮8道と、韓国で一番大きな島・済州道とで9つの道があります。ご存知でしょうが、韓国は小さい国で日本本島の約1/4の面積です。私の生まれ育ったソウル市は総面積が600km<sup>2</sup>有ります。その面積の中には約1000万人の人々をささえるすばらしい産業がさまざまな形で行われています。ソウル市を歩いて見ると外国人をたくさん見かけ国際的な都市になったと思う事もあります。私は、去年3月主人と一緒に5年ぶりに帰って来ました。あまりにも変化しておりびっくりする事ばかりでした。私は日本に住んで20年余りになり、韓国へ帰るとなぜか異国に来たような気分になるのは私だけなのかしら、と不思議な気分になる自分を発見しました。私は買い物大好きです。日本の観光客に知られている南大門市場などでは朝早くから買い物に出かけ、夕方まであっと言う間に時間がたってしまいます。活気溢れる色々な所を歩きながら韓国のおいしい空気をいっぱい吸って、日本に帰って来るのです。韓国に5日間いるあいだ、主人と共に私は本当に、我が国とはいえ、すばらしい国で生まれ育った事を誇りに思いました。こんなにすばらしい国民が、この国を支えてくれているのだと思い、安心感が体から湧いて来ました。町を歩くと笑顔が絶えないし、いつも力のある声が響き、笑い声がどことなく聞こえてきて、すばらしい我が国、大好き、バンザイと思わず叫びたくなる気分でした。

韓国と日本の習慣のちがいのひとつに、日本では、お茶碗を手で持ってご飯をいただきますが、韓国ではテーブルに置いたままでないと行儀が悪いと言われます。それから韓国では、親や年配者を敬います。親の誕生日にはどんなに遠くに住んでいても親元に帰ってお祝いをし

## 안녕하세요

an-njŏŋ-(h)a-se-jo

アンニョンハセヨ

=こんにちは



鈴木 恵さん



ます。

2002年、今年はワールドカップサッカーがあります。韓国は本当に町中がひとつになったような勢いで、頑張る姿が見受けられました。私も応援しています。日本！韓国！頑張れ～！どうぞ一緒に応援しましょう！日本が優勝、韓国が準優勝、いや韓国が優勝かも知れないですね。私は正直に言えば、日本でも韓国でもどちらでもかまわないです。これからも仲良く世界に向かって前進のみです。皆様どうぞ一度は韓国へ行って見て下さい。

(恵さんから日本語でいただきました)



農村の踊り





## Notice



## KIFA総会

平成14年5月19日(日)  
市総合福祉保健センター  
時間は13:30～  
2002年度総会が開催されます。  
みなさん参加しましょう。

語学研修講座  
のお知らせ

2002年度語学研修講座は  
5月中旬より英語(A、B、C、)  
スペイン語、中国語の5ク  
ラス(定員各30名)を予定  
しています。

日本語ボランティア  
養成講座開催について

来年度日本語ボランティ  
アに興味のある方々のために、  
養成講座を開きます。  
日程は、5月中旬～8月  
上旬を予定。

## We did it

浦安市国際交流協会  
ミニセミナーに一役

去る12月1日(土)  
ニュージーランドを理  
解する勉強会に招か  
れ、KIFAから4名が  
参加し、前副会長の岡  
本靖子さんが講演を行  
ないました。N、Zの



ビデオ紹介にはじまり、主催の都市交流委員会白竹委  
員長のNZとの今日までの交流、浦安在住N、Z大使  
館員夫人の子育て、文化、教育、生活についての話、  
続いて岡本さんの鎌ヶ谷市とワカタネとの姉妹都市提  
携に至った経緯、交流状況、ワカタネの紹介、課題点  
などの話。締め括りにKIFA創設に浦安市国際交流協  
会を参考にし、助言をいただいた事へのお礼をのべ、  
他市との交流、人の輪の広がりを感じて来ました。又、  
当日のボランティア通訳の対応もほのぼのと温かい雰  
囲気を感じられるものでした。

## 昔遊びを楽しもう



かるたあそび

道野辺小学校3年生  
は日本に伝わる遊びを  
学習している。そこで  
外国の子供はどんな遊  
びをしているか疑問が  
出てくる。KIFAに外  
国人講師の派遣要請が  
あり、希望者を募った  
ところアメリカ、フィリピン、タイ、インドネシア及  
び中国から計10名が快く応じてくれた。

2月5日、3年生の3クラス全員が待っている体育  
館に案内され、講師も3組に分かれて参加。まず、日  
本の伝統的遊戯「通りゃんせ」、「花いちもんめ」等  
でお互いの気分をほぐすことから始まった。他にもコマ、  
お手玉、メンコ、竹馬等の小道具も用意されており、

生徒達も自分の得意技  
を披露している。アメ  
リカ人講師より「ダッ  
ク・ダック・グース」  
などの遊びが紹介され  
た。子供の遊びは洋の  
東西を問わず似ている  
ので生徒達もすぐに覚  
え、講師を交えて楽し  
く遊び、予定の時間は  
終わった。



講師と一緒に楽しそうな顔、顔、顔

給食を一緒に摂った後、クラス全員がお礼に「ソー  
ラン節」を力強く踊ってくれた。本当に楽しかった。

## 語学講座合同閉講式

2月17日市総合福祉保健センターで英語ABCク  
ラス、スペイン語、中国語、日本語、フレンドリー各講  
座を終了した受講生たちによるクラス発表がありました。  
歌あり芝居あり、踊りありと先生方を囲んだ愉快  
なひとときでした。



クラス発表



ミーティング風景

通訳ボランティア & 外国人ボランティア講師  
ミーティング開かれる

2月17日(日)、外国人ボランティアを含め、21名の方  
々が参加され、初めての試みとしてミーティングが開か  
れました。今年度の活動状況、地域で進める子ども外国語  
学習の推進等について、熱心な話し合いが持たれました。

## お詫びと訂正

第43号3ページに誤りがありましたので、お詫びして訂  
正します。3ページ 占志強さん→占海慶さん

## 編集後記

KIFA Plaza 第44号をお届けします。KIFA行事の一部を  
紹介していますが、これらはKIFA会員により企画・実行され  
ています。来年度の新規KIFA会員を募集中です。(T.S)